

巨樹・巨木シリーズ-7

細田木材工業株式会社

顧問 細田 安治

前号では北関東の群馬県の巨樹・巨木でご紹介できなかった針葉樹の王様である「杉」について述べる。言うまでもなく「杉」は「桧」とともに建築材料として使い勝手もよく、数量も多いことから、木造住宅の建築材として、構造面でも柱梁、土台などの大物から根太、間柱などに、羽柄小物では貫板、野物の胴縁や垂木などすべての部分に使うことのできる材料である。また今シリーズでも杉は中心的な樹種であり、古くから日本人の心の拠り所としても人々に大切にされてきた。日本人にとって杉は、「植物としての樹から材料としての木」に至ったと言える。今日ではSDGs持続可能な重要な資源の一つとして、工業化した木材は、都市の木造化資材として重要な役割を担っている。「木材や」の我田引水でなく、地球温暖化が深刻化する現代社会における建築資材として、木材ほど建築に適した材料は、ほかに見当たらない。

さて、本論に入る。群馬県の巨樹・巨木はU氏の50本の調査木のうち、杉は20%、10本を占めている。しかも縁起にまつわる2本をのぞき、8本が神社境内にある。探索者U氏が選んだ10本の杉のなかで、筆者の独断と偏見により好みの杉6本をご紹介します、最後に残りの4本を含め、それぞれの特徴を表にした。

◇宮崎神社の大杉

昭和59年(1984)富岡市の教育委員会から、市の指定天然記念物として指定された巨樹である。樹齢約800年、周囲に柵を巡らした鉄製のチェーンは、不心得者を寄せ付けぬ威厳が漂っている。

この大杉は宮崎神社境内に位置し、樹高約25m、目通り7.6m。嬉しいね、ここで「目通り」という言葉が出てきた。ここで少々の脱線をお許しいただきたい。筆者の年代は幹の太さを「目通り」と表現していた。二つの大河ドラマの舞台遠江の国「どうする家康」「女城主直虎」は筆者のご先祖の地。ここにわずかの杉と松の山林を保有しているが、若い頃立木調査をしたことがある。布製の巻き尺で目通りつまり目の高さの直径を計測、帳面に記録し東京に持ち帰って計算した覚えがある。懐かしいことを思い出した。このように思い出が蘇えるのも執筆の楽しみの一つだ。

さて、巨樹の杉の話に戻ると、目通りで7.6m、枝張りは東西12m、南北15mで、先端は高さ20m付近で6~7本に枝分かれし樹冠を形成している。これが杉の樹としては大変珍し



宮崎神社の大杉

い現象である。杉と言えば、素直で真っすぐに育ち電柱のように空をついている。人のスタイルに例えると、育ち盛りの青年をイメージするような形状である。ところがこの巨樹は、頂点の付近で大きく6分割で傘を開いた様に枝葉が覆いかぶさっている珍しい巨樹だ。口伝によれば、貫前神社の藤太杉と同年代と言われている。この巨樹は残念ながら昭和59年(1984)に枯死した。

安中原市の杉並木

旧中山道沿いにある杉並木、植栽時期は諸説あるも最古のもので樹齢300年～400年といわれており、日光の杉並木と同年代のもの、巨木揃いでは日光よりも著名とされていた。街道の杉並木としては日本最大の規模を誇り、天保15年(1844)には732本を数えたといわれている。昭和8年(1933)に国指定天然記念物に指定された。指定当時は321本の杉が立ち並ぶ素晴らしい並木であったが安中市の発展と共に数を減らしていき現在では原町地区に残った十三本が当時のおもかげを伝えている。筆者はこの写真から受けた第一の印象は、江戸時代大名が臣下を引き連れ「下に下に～」の大名行列、周囲には士農工商の士に対して、農工商の庶民が土下座してお迎えし、お見送りをしている場面を想像した。もしかしたら、このような杉並木が連なる街道は、日本中探しても見つからないのではないかと、この街道は時代劇のロケに持ってこないのでは、と、ふと思った。また、この舗装なしで土むき出しの歴史的な杉並木を歩いてみたい。昨今の日本の道は公園の遊歩道まで舗装され、土むき出しの自然な道はない。自動車が入れる道は殆ど舗装されている。土の上を歩きたければ農地かハイキングしかない。自然が少なくなったのは悲しいことだ。なので、機会があれば安中市の「土の道」を歩いてみたい。この写真を撮影した巨樹・巨木の探索者のU氏の探し当てた探索の心が素晴らしい。



安中原市の杉並木

三夜沢赤城神社のたわら杉

群馬県指定の天然記念樹たわら杉は赤城神社境内の数多い杉の大木や、桧やアスナロ等の中でも一際目立つのが3本の大木たわら杉だ。東側から目通り周5.1m、6.1m、4.7m、根本周は6.0m、9.8m、5.6mで、樹高は各々約60mでありこれら3本の杉は群馬県内でも最大級と言える。

たわら杉とは平安時代の伝説の弓の名手「俵藤太」の大ムカデ退治として有名だ。

黒保根栗生神社

この杉は、平成9年(1997)に群馬県指定の天然記念物であり、栗生神社の御神木とされている。

関東平野からもその雄姿が目立つ、県内を代表する名山の一座である赤城山。東側には渡良瀬溪谷まで深い山域が広がっていて、ほぼ中央部には栗生山(968m)がある。標高650mの山中には創建から1000



三夜沢赤城神社 三本のたわら杉



黒保根栗生神社の大杉



榛名神社の矢立杉

年以上の歴史を有する古社、如何にも神様が鎮座していそうな、山中にポツンとある神社にしては、立派な栗生神社が鎮座。御神木は県内有数の大スギ。根本から先細りしないで立ち昇る、力強く真っ直ぐな主幹。背が高く傘状に繁茂した樹冠。じつに端正な樹容の大杉だ。加えて樹勢は旺盛、更に太くなりそうな生命力が伝わってくる。いかにも、「俺は杉の樹だ」と言葉が出てもおかしくない勢いのある力強い杉の巨木である。新鮮な赤みがかった樹皮の生き生きとして今にもはち切れそうな感じがする勢いのある木とみた。

榛名神社の矢立杉

国の指定天然記念物であり、武田信玄が箕輪城攻略戦勝祈願の際に植栽したと伝えられている。また、「信玄矢立杉」とも言われる。永禄6年(1563)、武田信玄は榛名神社に祈願して出陣し、箕輪城を落とすことができた。お礼の参拜で、この杉の下に弓矢を置いたのが、名の起源だとある。矢は置かれたのか、射立てられたのか。矢を納めたのは落城の後か前か。伝承には細部に相違があるようだ。

また、この杉の様は二又に分かれているが寄り添うような老夫婦、健康で長生きの人生を思わせる。以下本文で伝えられなかった巨樹も含めて表にてご紹介する

◇群馬県の杉まとめ

| 名称 | 樹齢(年) | 樹周(m) | 樹高(m) | ドキュメント | 筆者評価 | 指定天然記念物 |
|------------------------------------|-------|-------------------|-------|--------------------------------|-----------------------|---------|
| 宮崎神社の大杉 | 800 | 7.6 | 23 | 樹高20mで樹幹6本に杉が別れるのは珍しい | 珍木 | 富岡市指定 |
| 安中市杉並木 | 300 | 4.2 | 29 | 大名行列杉並木 | 歩いてみたい | |
| 三夜沢赤城神社 たわら杉 | 300 | 6.1 5.1 4.7 | 60 | 弓の俵藤太ゆかりの杉 | 歴史物語がある | 群馬県指定 |
| 黒俣根栗生神社 | 1200 | 7.4 | 48 | ご神木(807年大同2年) | いかにも杉、勢いを感じる | 群馬県指定 |
| 五郎の大杉 | 500 | 7.8 | 21 | 山中の杉 | | |
| 榛名神社の矢立杉 武田信玄弓矢を立て (戦勝祈願とお礼) | 1000 | 9.8 | 43 | 榛名神社境内 根元から二股に寄り添う | 夫婦杉 | 国指定 |
| 馬隠れ杉 | 1000 | 8.5 | 42 | 禁制の乗馬参りした 馬が隠れられるほどの樹 の洞 | 縦に伸びた木の洞 | 沼田市 |
| 須賀尾諏訪神社の杉 | 300 | 6.25 | 34 | 樹の形が円錐形 | 木の鋏 | |
| 妙全杉 | 840 | 6.2 | 42 | 樹の下に尼僧妙全像ある | 伸びた枝の合掌姿 | 日影村指定 |
| 鳴尾熊野神社大杉 | 1100 | 7.4 | 36 | 弘法大師が杖を立てたところから生えたと言われ、修験者の霊場 | 垂れ下がる樹根が 荒法師たちに見える | 群馬県指定 |

続く

ドロッカーの名言-8

第6章われわれの事業は何か

◇ドロッカー

- 決めるのは⇒生産者でなく顧客である。
- 顧客は誰か⇒最終ユーザー
- 顧客はどこにいる？

◇木材や

今こそ我々の事業はなにか“徹底的に考え行動すべき時ではないか”